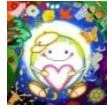


地球環境子ども村だより

No.56



令和4年3月17日(木) 発行

3月に入り、光は早春の輝きをおびて、野鳥たちのさえずりがあちこちから聞こえてきます。雪の多かった今年は、生き物も冬を越すのが大変だったでしょう。私たちも、新型コロナウイルスのまん延防止の期間で、暮らしにくい日々を過ごしておりますが、春の訪れが病気の流行を下火にしてくれるよう、もう少しの間頑張っただけで予防に努めていきましょう！

医師や看護師、エッセンシャルワーカーのみな様、お疲れ様です！そして、ありがとうございます！お体に気を付けて下さいね！では、子ども村便りを始めます。(=^・^=)

◎これまでの行事報告(11月～1月)

亀岡生き物大学 特別講座
「部分月食を観よう！」

11月19日(金) 午後6時～午後7時 参加者:19名

講師:植木 永子(環境学習指導員)

当日は、今年一番の観察日和になりました。月の出には既に食が始まっていて、午後6時3分頃に食の最大98%「ほぼ皆既月食」の姿が見られます。月食についてのミニ講座を終えワクワクしながら参加者と外へ出ました。

地球環境子ども村の東側は、少し山が高まっているので月の出が平地より遅くなります。そこで、最初は金星を望遠鏡で見てもらいました。参加者が見終わった頃、やっと欠けた月が現れ、望遠鏡を月に向けました。「うわー！大きく見える！」「すごく欠けてるね。」「赤く見える！」望遠鏡を覗く参加者は、嬉しそうに言って次の人に替わります。

天文ドーム「星楽館」の周りでは、亀岡天文同好会「諸星塾」のみなさまが自慢の望遠鏡を設置。参加者は、興味深そうに順番に覗いていきます。

月に投影された地球の影が動くにつれ、食の後半は月の明るさが増してきました。小学生は、月食観察シートに時間と欠けた様子の変化を熱心に書きこんでいました。



8割欠け赤く見える月



亀岡生き物大学 特別講座
「平の沢池野鳥観察会」

11月27日(土) 午前10時～正午 参加者:22名

講師:八木 昭さん(鳥類保護連盟京都)

初冬の曇り空、冷え込む池には、ロシア北東部などから飛来したカモの群れが首をすくめ、とても寒そうです。

参加者は、幼児からシルバー世代まで幅広く、野鳥の観察が初めての方もおられます。「観察の仕方を知りたくて、楽しみにしていました。」と、双眼鏡とカメラを持参されていました。

まず、中池の鳥の群れから、講師の八木さんが「白いのがダイサギ、灰色はアオサギ、頭が緑はマガモのオス…」と説明すると、バードスコープや双眼鏡で確認していきます。バードスコープにスマホを取り付けて、鳥の姿を拡大した画面を見ながら特徴を説明してもらいました。

カモの群れにも何種類か混じっていて、遠いのでなかなか見分けがつかせません。しかし、「何か白い変わったカモがいる。」と、参加者が気づき最後に確認したところ、「マガモのアルビノ(白化個体)です。」と八木さん。とても珍しいものを見ることが出来ました。



マガモとヒドリガモが見えます

あまりに寒かったので、観察の時間を早めに切り上げ池から戻りました。途中、急に強い雨が降ってきたので、観察のまとめをする時間もなく30分早く終了となりました。後日、八木さんより「当日は、18種類の野鳥を確認しました。」と報告がありました。たくさんの野鳥が観察できる平の沢池、この講座を機会にバードウォッチングを楽しむ人が増えると嬉しいです。



亀岡生き物大学 特別講座
「クリスマスリースを作ろう！」



12月11日(土) 午前10時～正午 参加者:14名

作成指導:植木 永子(環境学習指導員)

地球環境子ども村の周りで採集した自然の素材を飾り付け、オリジナルのリースを作ります。まず、クリスマスリースの意味について、「永遠や幸運を表し、魔除けになるそうです。」と、紹介しました。参加者はそれぞれ、リース台と飾りのセットを前にワクワク顔です。

1番始めに土台にハイバクシンやドイツウヒなどの常緑樹の枝を差し込んでいきます。それが終われば、シダーローズや金銀のマツボックリ、ユリノキの実、大きいものから順にグルーガンで留めていきます。赤いノイバラと白いナンキンハゼの実をバランスよく配置して、最後に大きなリボンを結びました。

作業をする子どもも大人も真剣で、黙々と飾り付けをしています。すごい集中力です。ある男の子が作ったリースは、とても迫力があり強そうで「これは、魔除けだ〜！」とお母さんが嬉しそうに見せてくれました。本人は「恐竜の骨をイメージして作った！」とのことです。講座の終わるころには、各々の個性が発揮された素敵なリースが出来上がりました。



グルーガンで飾りを付けます

亀岡生き物大学 特別講座
「冬の野鳥観察と巣箱作り」

1月29日(土) 午前10時～正午 参加者:8名

講師:八木 昭さん(鳥類保護連盟京都)

新型コロナウイルスの変異株の流行の為、少人数での開催となりました。まず、講師の八木さんより、子ども村での野鳥観察の取り組みと、見られる野鳥についてお話がありました。

次に2班に分かれ、1班は巣箱作り、2班は野鳥観察に出かけました。野鳥観察は、まず、事務所に設置した餌場のご案内、餌付けの様子を説明しました。ここにはヤマガラがヒマワリの種を食べに来ます。次はビオトープへ、餌台に子どもたちにヒマワリの種を置いてもらい、1家族ずつ観察小屋に入ってもらいました。

周囲から野鳥の鳴く声が出て、八木さんがその説明をしてくれます。エナガの群れが遠くの木の間を飛び回る様子や、ヒヨドリやカラスの鳴き声が出ます。でも野鳥はなかなか近くに寄って来ません。

実習室では、職員が巣箱づくりの指導をしました。家族で協力して巣箱が完成しました。また、子ども村で撮影したヤマガラの動画も見いただきました。

最後に八木さんが、巣箱を家で付けるときの高さや、向きについて、また、観察するときの注意などをお話してくれました。子どもさんが「小鳥が来るといいね!」と、巣箱をしっかり抱えて帰って行きました。



観察は鳥を驚かせないように

☆トピックス☆

3月14日、鶯の初鳴きがありました。15日はアマガエルの鳴き声が響き、生き物たちは春の訪れを伝えてくれます。子ども村で越冬中のオオクワガタも動きが見られるようになりました。子ども村の巣箱を、シジユウカラがつかいで見に来ています。ここで、ヒナを育てて欲しいですね。期待しながら、見守りたいです。

さて、地球環境子ども村では4月からの新年度も様々な催しを企画しています。子ども村の行事や催しについては、広報かめおかや、地球環境子ども村のホームページとフェイスブック、インスタグラムをご参照ください。お電話でのお問い合わせは、平日、午前9時から午後5時までにお問い合わせいたします。来村の折には、マスクを忘れずに!

(文責:植木)



地球環境子ども村

〒621-0242 亀岡市宮前町神前長野15

TEL:0771-26-6100 Fax:0771-26-5002

Email: kodomomura@city.kameoka.lg.jp